

鹿大三ジャーナル

KADAI JOURNAL

<http://www.kagoshima-u.ac.jp/>

特集

鹿児島大学の教育

本学のユニークな研究紹介

人間のこころを脳科学で読み解く

鹿大の新たな試み

魅力ある鹿大を「知財」が支える

～鹿大の知的財産戦略～

アラムナイ追跡隊

南日本放送(MBC)アナウンサー

松木圭介さん

鹿大見てある紀

水産学部附属練習船

「かごしま丸」と「南星丸」

なんでも情報版「みみずく」

放送大学と単位互換協定締結／法文学部が「マスコミ論」を開設

医学科入学者選抜に「地域枠」を導入／建築学科学生による建築展開催

教育学部4年生の小説が好評／鹿児島大学ブランド焼酎が誕生

鹿児島大学病院の教育プログラムが採択／行事予定



鹿児島

大学の

教育

「鹿大で進む教育改革」

鹿大が、積極的な教育改革に乗り出している。

これまでも「大学教員の資質・授能力の向上」を意味するFD（フアカルティ・ディベロップメント）活動を行い、学生による授業評価などを積極的に取り入れてきた。今年の7月には、それをさらに押し進めた「全教員による授業公開・授業参観」の実施が教育研究評議会で決定された。今後は、学内組織であ

「教育と研究は大学の両輪」といわれる。

鹿児島大学では、これまで実施してきた教育改善のための取り組みをさらに推し

進め、学生の立場に立った教育へ生まれ変

わろうとしている。具体的な事例を紹介

しながら、鹿大の新しい教育の姿を探る。

る全学FD委員会（委員長・根建心具教育センター長）が中心となって、具体的な実施方法を模索していく。同時に、鹿大では文部科学省（以下、文科省）が公募する教育支援事業にも、積極的に応募してきた。

「評価されるのは必ずしも楽しいことではないが、これらの教育支援事業への申請を通じて、自分たちの大学の教育活動を見直したり、特色を再発見できる良い機会だ」と、教育・学生担当理事の種村完司副学長は言う。

こうしたさまざまな教育改革を通じて、鹿児島大学の教育は少しずつ変わり、教育支援事業への採択件数も増えてきている。今回はその中から、2つの教育支援プログラムを紹介しよう。



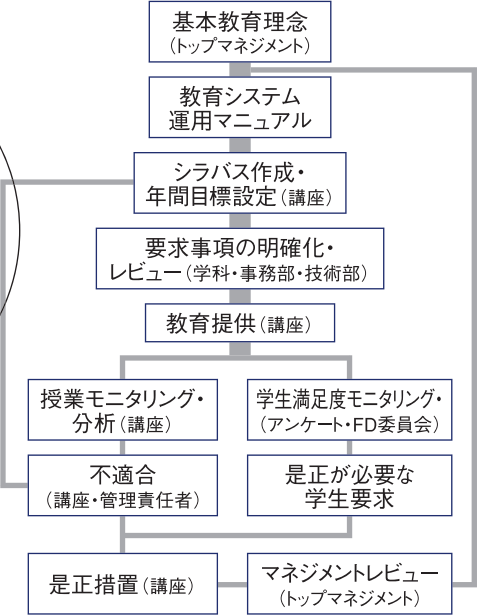
水産学部

ISOを活用した 教育システムの展開

～ユニバーサルアクセス時代への展望～

文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」採択事業

≫授業実施・学生満足度
モニタリングのプロセス(右図)
教育に対する学生の満足度は常に
モニタリング・評価され、不適合があ
れば是正措置や教育理念へのフィ
ードバックが行われる。このプロセスは、
監査員養成研究を修了した学部教員・
事務職員による定期的な内部監査
で点検されている



水産学部では、学生による授業評価と教員による組織的な授業内容の点検を通じて学部の全教員が授業改善を行う「教育改善システム」を構築し、学生の満足する教育への改善に取り組んでいる。2003(平成15)年、水産学部はこのシステムで、品質管理の国際規格ISO9001を認証取得した。教育分野での取得は、国立大学法人の学部単位では国内初の快挙である。

今年8月にはこのシステムを発

教育の質向上に ISO9001を活用



フィリピン大ヴィサヤス校の学生たちとの国際交流

展させた「ISOを活用した教育システムの展開～ユニバーサルアクセス時代への展望～」という事業が文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」に採択されている。

今回のプログラムには特筆すべき取り組みが2つある。

1つ目は、カリキュラム改善のシステムは授業改善を保証するもので、カリキュラムの改善までは行っていない。松岡達郎水産学部長によると、学生の満足の究極の形は「希望する仕事に就くこと」と言う。それには、学生にそれ相應の能力がなければならぬ。その能力を培うことができるカリキュラムかどうかという観点から、授業科目群を検討・改善できるシステムづくりを目指す。

2つ目は、国際研修事業に対するISO9001の認証取得を目指すことである。この分野において、鹿大水産学部は他の追随を許さない歴史的・量的実績を持つ。「学びたい人は、いつでもどこでも誰でも学習できる」というユニバーサ

学生満足の 「究極の形」を追求

鹿大の教育改革の牽引車として、他大学のモデルとして、水産学部の今後の活動に注目が集まっている。

鹿児島大学水産学部のISO9001認証登録証



鹿児島大学水産学部のISO9001認証登録証

他学部、他大学の モデルケース

今後は、ISO9001を活用した教育システムを他学部、他大学に活用できるかどうかの研究も行っていく。学内では現在、教育学部、農学部とそれぞれ共同研究会などを開催している。学外では他大学からも問い合わせがあり、将来、水産学部の取り組みが学外に波及していく可能性も出てきた。

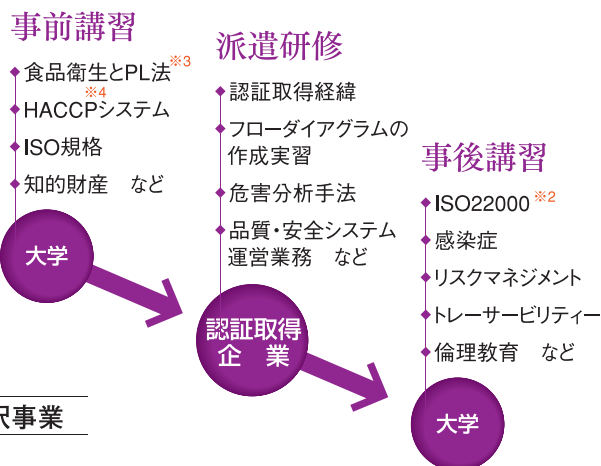
ルアクセス時代の到来に備えて、海外からの研修生に対する教育分野でもISOを取得し、水産学部の教育に対する国際的な信頼性のさらなる向上を目指す。

※1 ISO9001
品質を常に維持向上させるなど、顧客の満足度を向上させるための仕組みについて「国際標準化機構 (ISO)」が定めた国際規格のこと。

食の安全マネージャー養成プログラム

文部科学省「派遣型高度人材育成協同プラン」採択事業

■プログラムのカリキュラム



高まる「食の安心・安全」への関心

焼酎、黒豚、黒牛、黒酢…。今、鹿児島県の食が注目を集めている。その一方で、「食の安心・安全」を揺るがすような事件も頻発しており、「食の安心・安全」に対する世間の関心が高まっている。

そんな中、魅力ある食文化を発信している地域の大学として、大学院農学研究科では「食の安全マネージャー養成プログラム」を構築し、今年8月に文部科学省の「派遣型高度人材育成協同プラン」に採択された。今年度から5年間にわたって、年間1千万円程度の補助金を受ける。

工場で学生自らISOを体験

このプログラムの最大の「売り」は、学生自らが品質保証に関する国際規格・ISO9001を認証取得した全工程を実地体験することだ。ISOなどに関する事前講習の後、鹿大との産学連携の実績をもつ日本澱粉工業(株)と薩摩酒造(株)のテストプラントで企業の指導を受けながら、学生が製品の



日本澱粉工業(株)のテストプラント
大学の研究室では実習できない規模の生産実験が可能

生産、検証、評価を約3ヶ月間かけて行う。

ISO9001は通常、企業がその生産活動の中で実施するものである。学生がその知識を机上で学ぶだけでは、真の理解にはほど遠い。「企業での実地体験には、学生が自分の体験を通してISOを理解できるだけでなく、ものづくりの楽しみも味わえるというメリットがある。大学院修了後は『食の安心・安全に通じた学生』として、企業にアピールできる」と安部淳一教授(大学院農学研究科生物資源利用科学専攻)は期待する。

学生が魅力を感じる大学院へ

今後は、農学研究科の教員をISO9001の規格内容を教えることのできる講師として育て、



農学研究科での実験風景

費用のかかる学外講師の事前講習を教員が実施する体制を整えていく考えだ。また、水産系の研究科や、食品を扱う工場設備などとの関係から、工学系の研究科に対する同プログラムの展開も視野に入れている。

学生にとっても、このプログラムは「長期間にわたって経験を積める」「自分で考えて、作業の計画を立てて実践ができる」「ISOの事前講習・テキストの費用が大学負担なのは有り難い」と、魅力的に映るようだ。就職を控えた学生にとって、魅力的な教育とはなにか。それを問い直した今回のプログラムの今後に期待が高まる。

※3 PL法(製造物責任法)

PLとは、製造物責任(Product Liability)の略称。製品の欠陥によって生命、身体または財産に損害を被ったことを証明した場合に、被害者が製造会社などに対して損害賠償を求めることができる法律。

※2 ISO22000

食品安全管理を目的とした初めてのISOマネジメント規格で、顧客に対して安全な食品を提供できる企業であることを保証するもの。2005年9月に正式発行された。

鹿児島大学FDシンポジウム

パネルディスカッション

「鹿児島大学の教育ビジョンを語る」

2005(平成17年)9月30日 場所:稲盛会館



- コーディネーター 野呂忠秀
(教育センター・高等教育研究開発部部長)
- パネリスト 永田行博(学長)
種村完司(教育・学生担当理事、副学長)
皆川洋一(工学部長)
根建心具(教育センター長)

●自助努力で鹿大の教育を改善する

今回のシンポジウムは、学内の教員がそれぞれの教育に関するノウハウを披瀝し、自助努力で鹿大の教育を変えていくのではないかと趣旨で企画された。

冒頭であいさつに立った永田学長は、「教育は学生のためにある。そのためには、学生による授業評価、教員の評価は必須」とした上で、「教育センターを中心に、お互いが教育方法を共有していただきたい。大学も支援を行っていく」と、参加した鹿大の教職員らに教育改善の決意を示した。

●学生の現状を踏まえた教育とは

その後、教育のあるべき姿についてのプレゼンテーション、学生の現状や問題点などの報告を経て、「学生の現状を考えた場合、鹿大の教育は今後どうあるべきか」という論点でパネルディスカッションが行われた。

皆川教授は「学生に能力がないわけではない。ただ、高等教育を受ける準備が足りない。学生が自分の能力をどう判断し、磨きをかけ、何を生業としていくかということを大学が

鼓舞することで、動機付けはできる」と、学生への対処の仕方について触れた。また、教育への取り組みが学部ごとに異なることにも言及し、「共通のビジョンを持ち、大学としての到達目標を示すべきだ。学生に対して『これだけは履修して卒業せよ』という要求があってもいい」と提案した。根建教育センター長からは「本学は様々な学問と専門家を擁する総合大学で、力を結集できれば素晴らしい長所となるが、現在、共通教育の飛躍に結びついていない」と、共通教育の実施における問題点の指摘がなされた。

●多様な学生にどう対処するか

「多様なレベルの学生に対し、どのような工夫をしたら良いか」という会場からの質問に対しては、「授業だけでは限界がある。自主ゼミ、ボランティアなど何でも良いので、人間の生き様を確認できるような企画も考えざるを得ない(皆川)」、「教員が学生の知識欲に応えられる授業をやっているのか、そういう教授法を身に付けようとしているのかを問い直したい(種村)」、「能力のある学生を伸ばし、迷っている学生に対処するには、個人の能力と興味によってカリキュラムをつくることのできる『自由単位』の採用が望ましい(根建)」などの意見が上がった。最後に、野呂教育センター・高等教育研究開発部部長が「教育の成果は目に見えにくい。今後は良い教育をする教員をサポートするシステムの構築をぜひお願いしたい」と締めくくった。

「学生中心主義」の大学教育を

教育支援事業に採択された分野は、これからの教育改革の牽引車としての役割を果たしていくことが望まれている。それ以外の分野にも興味深い取り組みはたくさんある。引き続き、学長裁量経費^{※5}を投入し、大学として支援していく構えだ。

紹介した2つの教育支援プログラムは内容こそ違いますが、学生の学ぶ意欲に応え、社会に通用する人材を育てる教育を追求した点では同じといえる。種村副学長も、「これからは『学生中心主義』を大学の教育の土台に据えなければならぬ」と強調する。学生が望む教育の形を常に模索し、実施していくことが大切だ。

鹿大の全教員が学生の立場に立ち、絶えず自分たちの教育活動を見つめ直していくことができるかどうか。教育改革の成否の鍵はここにありそうだ。



※5 学長裁量経費

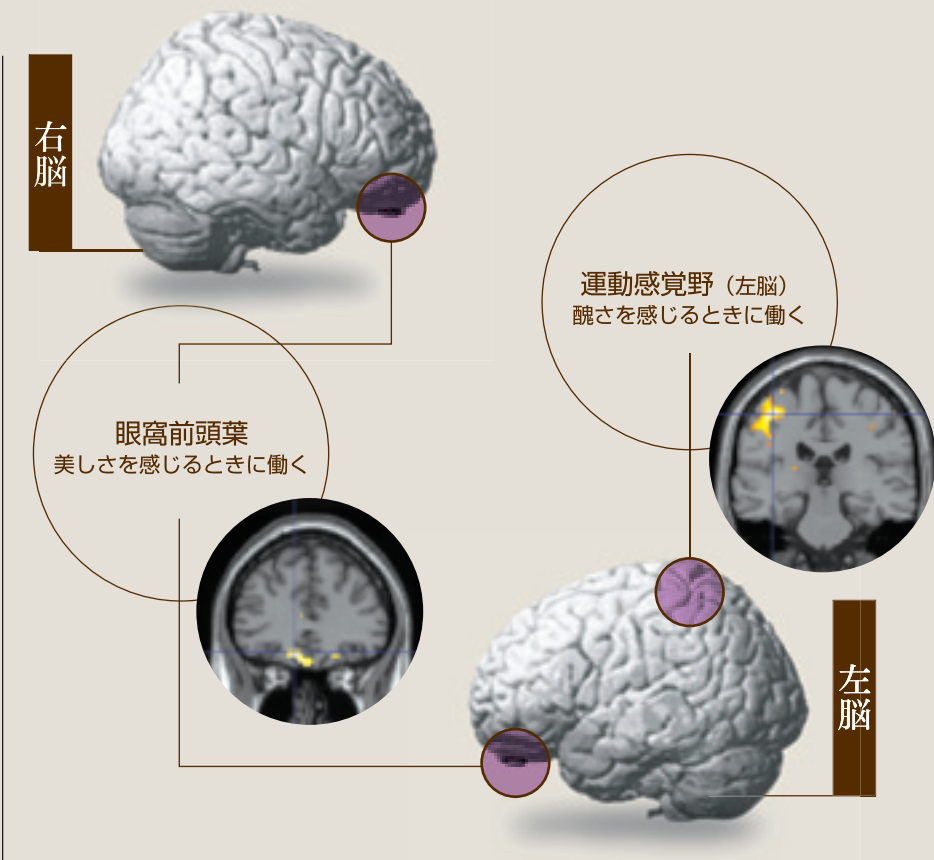
本学の優れた教育・研究活動を支援するため、学長の権限で特定の教育・研究に配分できる予算のこと。個々人の教員の教育・研究活動だけでなく、学内の複数の学部の教員が共同で行うプロジェクトなども、その対象となっている。

※4 HACCP [Hazard Analysis-Critical Control Points]

1960年代にアメリカ航空宇宙局(NASA)で宇宙食の安全性を確保するために開発された食品の安全・衛生管理システムのこと。食品の安全性を脅かす要素の発生原因を分析し、その発生を予防するための重要管理事項を定めて、製造工程を管理する。

人間の
 ところを
 脳科学で
 読み解く

私たちが普段、「ここで感じている」と思っていることは、脳の活動によるものである。しかし、人間の感情や行動を司る脳については、まだまだ未解明の部分も多い。近年、理系の分野である脳科学と心理学の知見を融合して、人間のところと脳の間を明らかにする研究が行われている。



「美しい」「醜い」と感じる際の脳の活動部位とfMRIで見た脳の断面画像
 断面画像中の着色された部分は、脳の活発な活動を示している

芸術作品に反応する
 私たちの脳

人はなぜ、どのようにして、芸術作品に対して「美しい」と思ったり、感動したりするのだろうか。

教育学部心理学研究室の川畑秀明助教授は、こうした人間のこころの動きについて、最先端の脳科学と古典的な心理学の手法を生かした研究を進めている。研究では、脳の断面を画像化するfMRI（機能的磁気共鳴映像法）を用い、芸術作品に触れたときの脳の活動の様子を調べる。fMRIを使えば、血中の酸素レベルなどを測定できるため、脳のどの部分が活発に働いているかが分かるのである。

ロンドン大学のセミール・ゼキ教授との共同研究では、絵画鑑賞において「美しい」「醜い」と思うと

きの脳の活動を調べた。fMRI装置の中で肖像画・風景画・静物画・抽象画という4種類の絵画を約百枚ずつ見せたときの脳の活動の様子を、絵に対する「美しい」「醜い」「どちらでもない」という印象と関係づけたのである（上図）。すると、人間の脳は「美しい」と感じるときに「醜い」と感じるときでは、活動する個所に変化が見られた。

短歌や俳句を脳は
 どのように感じるか

今年度からは、文部科学省の平成17年度科学研究経費に採択された「短歌・俳句の作品評価の脳内基盤」と題する研究に取り組み。研究の素材を、絵画から短歌・俳句という日本独自の芸術作品に代えて、短歌・俳句を読んだときの脳の活動の様子と、作品に対する印象の間を関連を調べていく。

ベストセラーになる書籍のタイトルや、章の見出しの中には、五・七や七・五のリズムで構成されているものが多い。例えば、料理研究家・栗原はるみの本『ごちそうさまが、ききたくて』はその好例だ。その点に着目した川畑助教授は、短歌や俳句がもつ五・七・五・七・七、あるいは五・七・五という定型のり



授業で学生が制作した絵本。
絵はすべて手描きで、丁寧に
製本されている



『やわらかい「わたし」のつくりかた
～脳とここで学ぶ、自分と世のなか～』
(川畑秀明 著・柏書房・2005)
『「わたし」そして「ここ」の働きやしくみを
心理学や脳科学の視点から浮き彫りに
しようという試みのもとに書きました』
(「まえがき」より)



川畑秀明助教授は、化粧品メーカーと共同で、メイクによって人の印象が
どのように左右されるかを研究している

ズムには、人が「心地良い」「美しい」と感じる要素があるのではないかと考えた。

短歌や俳句を素材にして、言葉のリズムとその印象の関係を明らかにできれば、心地よいと思う要素や違和感を覚える要素が見つかる可能性がある。「それを書籍のタイトルや商品のネーミング、文章を考えるときに役立てることもできるかもしれません」と川畑助教授は言う。

実験では、質問紙に並べられた数多くの形容詞対(例/良い/悪い)の中から、短歌や俳句に対して抱いた印象にあてはまるものを被験者に選んでもらい、そのときの脳の活動をfMRIで観察するという手順で行われる。定型をもつ短歌や俳句は、文字で構成されたものともシンプルな形の芸術作品である。字余りや字足らずによって定型を崩すこともできるため、リズムを違えた場合に、人の印象がどのように変化するかということ測定しやすい。

脳科学と心理学を 応用した教育と研究

脳科学や心理学の手法を生かした、教育や研究も行っている。

大学では、「絵画と絵本の心理学」という授業を担当している。視覚効果や、文章の配置、レイアウトの法則などについて学びながら、学生自らが物語を考えて絵を描き、製本まで行う。受講生の数を制限するほどの、人気のある科目だ。

自動車メーカーのホンダの先端研究子会社、(株)ホンダ・リサーチ・インスティテュート・ジャパンとの共同研究では、ロボットが人間のようにコミュニケーションをとれるようになるための基礎的な研究を進めている。将来は、人間の脳の神経メカニズムをロボットに応用することを目指す。

また、化粧品メーカーの花王とは、メイクによって人の印象がどのように左右されるかを調べることで、コミュニケーションとしての化粧について研究を行っている。

人間のこころと脳の関係が解明されれば、私たちの生活の中のあるらゆる面に応用ができそうだ。人々に受け入れられやすい商品の開発や、人間との意思疎通を図れるロボットの実現、印象を自在に操るメイク法など、夢は膨らむ。「これからも、人間の感性について脳科学の立場から検討していきたい」と川畑助教授。今後の成果に期待したい。



魅力ある鹿大を「知財」が支える

（鹿大の知的財産戦略）

大学の研究成果などに代表される知的財産は、有効に活用すれば大学に研究資金をもたらす、大学をさらに魅力あるものにする可能性を秘めている。こうした知的財産の活用を進めるべく、鹿大には「知的財産本部」が設置され、活動を行っている。鹿大の知的財産の活用事例を中心に、今後の鹿大の知的財産戦略について紹介する。

■鹿児島大学知的財産関係規則等の整備状況

- ◆平成16年4月1日
 - ・国立大学法人鹿児島大学知的財産ポリシー
 - ・国立大学法人鹿児島大学知的財産規則
 - ・国立大学法人知的財産本部運営委員会規則
 - ・鹿児島大学知的財産本部組織規則
- ◆平成17年3月2日
 - ・国立大学法人鹿児島大学における職務発明等に対する補償金及び報奨金細則
 - ・国立大学法人鹿児島大学特許等管理細則
- ◆平成17年7月26日
 - ・国立大学法人鹿児島大学産学官連携ポリシー
- ◆平成17年8月22日
 - ・国立大学法人鹿児島大学ノウハウ、プログラム等及び研究マテリアル等管理細則
- ◆平成17年9月20日
 - ・国立大学法人鹿児島大学産学官連携に係る利益相反マネジメントポリシー

鹿大の研究を支える知財本部

大学の研究成果などに代表される知的財産（以下、知財）は、特許によって保護されることで共同研究や受託研究の依頼が増えたり、国からの研究資金を得やすくなるという利点がある。特許を取れるような知財は、外部からの評価が高いことの表れでもあるからだ。

長期的な視点で見れば、知財の活用は、鹿大の研究環境を整えて教員の研究意欲を高め、優れた研究成果によってさらなる研究資金を得る、という良い循環「知的創造サイクル」を生み出す。このサイクルは、大学淘汰の波の中で鹿大が生き残るためになくてはならないものだ。

鹿大では「鹿児島大学知的財産本部」以下、知財本部。本部長・竹田靖史理事）がそのサイクルの中心となって活動している。企業出身者の小池保夫教授（総括マネージャー）と、（社）発明協会から派遣された金崎雄三郎客員教授（知的財産管理アドバイザー）が、特許の重要性の啓発や先行技術調査、競争的資金公募の紹介、大学の経営戦略に沿った知財戦略の企画立案などを行い、鹿大の研究環境のサ

ポートを行っている。現在は知財活用の重要性を訴えるために、さらなる研究資金獲得につながるような知財の発掘にも余念がない。ここではその中から、知財本部が特許の出願、事業提携の契約などにおいて深く関わった3つの事例を紹介する。

研究資金獲得につながる鹿大の知財

ねじめびわ茶
共同研究から事業展開へ

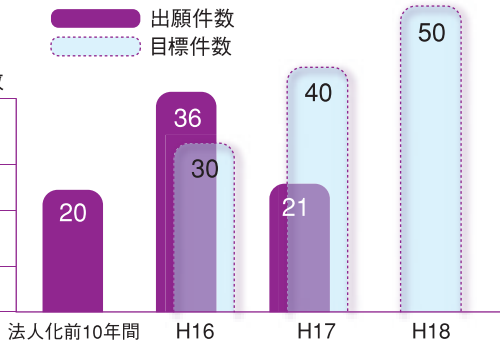
農学部は農業生産法人（有）十津川農場との共同研究における動物実験で、同農場の販売する「ねじめびわ茶」にダイエットや健康増進の機能があることを明らかにした。そこで、鹿大と同農場は共同で特許を出願。びわ茶を利用した食品などを発売し、売上高の一定割合を同大に支払う事業提携を結んだ。この事業提携は、鹿大法人化後第一号のケースであり、今後、鹿大の知財を活用した地元企業に対する事業支援の先例となるものである。社会貢献をしながら、共同研究の継続によって大学に引き続き研究資金をもたらす、意義ある事例だ。

知的財産戦略を練るには、学長との意見交換は欠かせない。右から永田行博学長、知的財産本部長の竹田靖史研究・社会連携担当理事（副学長）、総括マネージャーの小池保夫教授、知的財産管理アドバイザーの金崎雄三郎客員教授、研究協力部研究協力課の黒木哲朗知的財産係長



▶鹿児島大学の特許出願状況

年度	出願件数	目標件数
法人化(2004)以前の10年間	20	—
平成16年度	36	30
平成17年度 (2005年9月末現在)	21	40
平成18年度	—	50



国立大学法人化後は国立大学も財務諸表などを作成し、社会に大学の経済活動に対する説明責任を果たさなければならぬ。そこで財務課の職員の改善努力によって構築されたのがこのシステムノウハウだ。今年8月に熊本県立大の財務会計システムの入札にNEC

財務会計システムノウハウ 〜鹿大財務課職員が生みの親〜

ベンチャー企業の設立によって収入が見込めるだけでなく、教員が自分の会社を持つことでさらに研究意欲を高めるといふ効果も期待できる。

かごしまIT医療センター 〜医療IT化でベンチャー設立〜

2005(平成17)年4月、鹿大のバックアップにより、鹿大教員と民間企業6社によるベンチャー企業「株」かごしま医療ITセンター」が設立された。1984年から病院情報システムの開発・導入を行ってきた鹿児島大学病院のもつノウハウを社会に生かし、収益の一部を大学に還元する。効果的な病院経営を支援するサービスや、看護師の適正配置を割り出す情報処理サービスの提供などを事業の柱としている。

また、研究の方向性についても助言ができるよう、バイオテクノロジーに通じたスタッフや、事業提携などの契約担当スタッフ、鹿大の知財関連の企画や戦略の立案ができるスタッフの拡充を目指す。研究者と学内の関係部局との連携を密にしなが、多方面にわたるサービスを充実させていく予定だ。さらに魅力ある鹿大を目指して、知財本部の活動は始まったばかりである。

鹿大では、大学トップと知財本部との意見交流が盛んである。今後は学長が中心となって「鹿大にしかできない」分野に絞った研究戦略を練り、それに合わせた知財戦略を組み合わせて鹿大の知的創造サイクルをより強固にしていく。

鹿大の知財で さらに魅力ある大学へ

パーソナル南九州とジェー・エー・シーと共に参加し、見事落札。9月には福岡県立3大学(九州歯科大、福岡女子大、福岡県立大)の財務会計システムも落札した。大学運営に関わる部門の知財は、コスト削減が期待でき、大学の研究環境を整備する余裕が生まれる。教員の研究成果以外にも価値ある知財のあることを証明した事例だ。

interview

**Keisuke
MATSUKI**

「自分で責任を持って
何かをつくり、
伝える仕事」というのが
就職活動の条件でした。

南日本放送 (MBC)
アナウンサー

松木 圭介さん

● profile

1977年千葉県生まれ。千葉市立稲毛高等学校を卒業後、鹿児島大学法文学部法政策学科に入学。2001年同大卒業後、(株)南日本放送 (MBC) にアナウンサーとして入社。2002年から2年間、鹿大生が主催する「鹿児島発キャリアデザインセミナー～就活だよ! 全員集合～」に鹿大OBとして参加。2005年には、JRN・JNN系列の加盟39社の中で、優秀と認められたアナウンサーに送られる「第30回アノンシスト賞」の全国審査会において、スポーツ実況部門優秀賞を受賞。趣味はスポーツ、バイク、旅。

●松木圭介さんのブログ「松木圭介の『魂・たましい〜!』」

URL <http://tamashii.exblog.jp/>

この先生のもつて学びたい

僕の通った高校は、先生が生徒に「将来なりたい職業」を聞いた上で進路指導をしてくれる学校でした。「家裁の人」という漫画を読んで、家庭裁判所の調査官や少年法に興味をもっていたころだったので、「法律をやりたい」と答えたところ、先生が紹介してくれた大学のうちの一つが鹿大だったんです。刑事訴訟法が専門の指宿信先生(現・立命館大学法科大学院教授)が鹿大にいらつしやるのを知り、先生のもつて勉強したくて鹿児島に来ました。

鹿児島でならやれる

高校生のころから、法律の仕事に興味を持つと同時に、阪神大震災のニュースを見て「人に物事を伝える仕事」の大切さを感じ、マスコミ関係の職に就きたいとも考えていました。

そこで「自分で責任をもつて何かをつくり、伝える仕事」というのを条件に就職活動を始めました。マス



ラジオのスポーツ番組では、取材、録音、編集、アナウンスを1人で担当する。「本当にいろいろなことができる仕事だと思います」

コミ以外の職種も受験しましたが、最終的にはやはりマスコミ関係の仕事がいいと、南日本放送に入社しました。大学4年間で一人で鹿児島で過ごしてきたので、「鹿児島でならやれる」という自信がありましたし、「鹿児島が好きだ」という思いが強かったこともあります。

180万人を相手にした仕事

担当しているラジオ番組では、ディレクターとしての仕事を兼ねるときもあります。番組の構成を考えて取材に行き、編集して、しゃべって、番組を完成させるところまでを全部一人でやります。スポーツの実況のために、実際にそのスポーツをやってみたり、ルールやスコアシーアの付け方を覚えたりもしますね。

ラジオには、リスナーの皆さんに見えないものをどう表現するかという面白さがあります。例えば、野

球の実況で「打ちました、高いバウンド」と言うより、「たかーいバウンド」と言ったほうが、聞いている人に球の跳ねる様子がリアルに伝わる場合があると思うんです。そういう工夫をするのが難しくもあり、やりがいでもあります。

もちろん、失敗するときもあります。でも、180万人もの鹿児島県民を相手にした仕事です。落ち込むことはあっても、残念だと思おうのではなく、次にそうならないための勉強をするようにしています。

大学時代は

「よく学び、よく遊べ」

今年が入社5年目。あと5年後には「松木圭介」というアナウンサーはこれが専門だと言えるものを持ちたい、というのが目標です。プライベートではバイクのスポーツプリントレースや耐久レース、スキューバダイ



今年7月、「2005オートボリス4時間耐久オートバイレース」(会場:大分県オートボリス)に出場。このときの成績はクラス5位

イビングなどに挑戦しています。いろいろな経験を通して、おしゃべりの「引き出し」をもっと増やし、表現の幅を広げたいですね。

大学時代は「よく学び、よく遊べ」ですよ。社会人になって思うのは、大学生のときに取り組んだことは、仕事に就いてからも支えになるということ。勉強でもアルバイトでも遊びでも、とことんやって卒業してほしいですね。



今年9月に行われた「第117回九州地区高等学校野球大会鹿児島県予選」の実況をする松木さん

- 担当している主なテレビ番組
ズバット!鹿児島(土曜9:45~10:15)
スポーツ実況(サッカー・駅伝・ゴルフなど)
MBCニュース

- 担当している主なラジオ番組
城山ススメ(月曜~金曜14:35~16:50)月・火担当
Chaoエンジョイライディング(土曜17:00~17:10)
松木圭介の週間Mスポ(日曜17:30~18:00)
スポーツ実況(高校野球など)



あ鹿 る大 紀見 て

水産学部附属練習船 「かごしま丸」

助教授 益満 侃(船長)
 講師 内山 正樹(一等航海士)
 講師 吉永 圭輔(次席一等航海士)
 助手 東 隆文(二等航海士)
 助手 福田 隆二(次席二等航海士)
 職員数 34名



1.主要寸法等

長さ(全長) 62.70m
 幅(型) 12.60m
 深さ(型) 5.45m
 総トン数 1292.7t
 国際総トン数 1593t

2.速力および航続距離

試運転最大速力 14.067kts
 航海速力 13.0 kts
 航続距離 13,700miles

3.定員

乗務員 38人
 教官 5人 学生 48人

4.容量

燃料タンク 391.49k1
 清水タンク 328.77t

5.推進機関および推進器

推進機関 4 cycle, diesel engine 2,200 PS
 推進器 4 Blades Controllable pitch propeller

6.竣工

1981年10月30日



機関制御室



学生居室



益満船長

世界一広いキャンパスで活躍する 2隻の練習船

水産学部のある国立大学は全国に4校。

そのうちの1校である鹿児島大学の水産学部では2隻の船を所有しています。
鹿大水産学部の教育・研究を支える、それぞれの船について紹介します。

水産学部附属練習船

「かごしま丸」 「南星丸」

□2か月間の乗船実習を
支える教育船

「かごしま丸」

「かごしま丸」は水産学部生を対象とした乗船実習を主に担当している教育船です。大型の船のため、一度に1講座・1クラス単位の教育が可能です。

かごしま丸によるもっとも大規模な航海は、3年生を対象とした「遠洋調査実習」です。2か月間に及ぶインド洋までの航海の過程で、マグロ延縄操業やトロール漁業、海洋観測などを実践します。外国の寄港地では現地大学との交流も行います。今年には鹿大と大学間交流をしているフィリピン大学ヴィサヤス校を訪問し、施設の見学や学生同士の交流、研究発表などを行いました。

竣工から25年が経過したかごしま丸は船体の老朽化が激しく、新造船の計画が進められています。『日本初』といわれるような新しい船を造り、それに見合う実習を行っていきたい」と船長の益満侃助教授。乗船実習への参加学生の三分の一を占めるようになった女子学生に対応した設備も備える予定です。

水産学部附属練習船 「南星丸」

助教授 東 政能(船長)
講師 幅野明正(一等航海士)
職員数 13名



ポンプジェット式パウスラスタ



操舵室

1.主要寸法等

長さ(全長) 41.96m
幅(型) 7.50m
深さ(型) 3.30m
総トン数 175t
国際総トン数 280t

2.速力および航続距離

試運転最大速力 14.48kts
航海速力 12.00kts
航続距離 abt. 3,000miles

3.定員

乗務員 14人
教官および学生 16人

4.容量

燃料タンク 72.90kI
清水タンク 22.80t

5.推進機関および推進器

推進機関 4 cycle, diesel engine 1,800 PS
推進器 4 Blades Controllable pitch propeller

6.竣工

2002年11月27日

最新機器を備えた練習船

「南星丸」

2002(平成14)年に建造されたばかりの「南星丸」は、鹿児島湾を中心に薩南・甕・奄美海域において、水産学部学生を対象とした漁業実習や海洋観測、さらにはイルカからプランクトンまでを含めた海洋に関わる調査研究を行っています。

このようなニーズに対応するため、南星丸にはさまざまな工夫が施されています。例えば、統合型・全周型船橋(＝操舵室)は、作業の省力化を図ると同時に、広い作業甲板の監視を容易にしています。可変ピッチプロペラ・ポンプジェット式パウスラスタ・特殊舵を組み合わせたシステム装置は、ジヨイステックでの操作が可能となり、操船がしやすくなりました。また、ねらった魚群を追尾し、そこに網を誘導することができる「オート・トロール・システム」を備え



東船長

ています。

こうした斬新な設備や外観によって、若い人たちの漁業や練習船に対する関心が高まるのではとの期待から、2003年、(社)日本造船学会が選ぶ「シップ・オブ・ザ・イヤ12002」の準賞に輝きました。

日本の水産業と

鹿大の未来をのせて

「かごしま丸」と「南星丸」は共に、毎年7月に鹿児島港本港区で開催されるウオーターフロントフェスティバルにおいて一般公開を行っています。また、今年初めて「親子で冒険 かごしまの海と山」と題した小学生とその家族を対象とした公開講座を行い、南星丸での漁業体験などを行いました。今後も、地域住民の方々に鹿大の練習船に親しんでもらう生涯教育の機会を設けていきます。

海という世界一広いキャンパスを縦横に動き回る鹿大の練習船は、これからも、日本の水産業と鹿大の未来をのせて航海を続けていきます。





▶ 法文学部が「マスコミ論」を開設

法文学部(山田誠学部長)では平成17年度後期より、「マスコミ論Ⅰ」「マスコミ論Ⅱ」の2つの授業を開設しています。本授業は、法文学部と鹿児島県マスコミ関係12社が協力して、地域におけるマスメディアの役割や今日の課題について講義を行うというもので、マスコミという具体的な目を通して、情報を読み解く力や地域社会を見る目、世界を見る目を学生に身につけさせることを目的としています。

同様の授業は他大学でも行われていますが、本学のように、県内マスコミのほとんどの社から講師の派遣を受けて実施するような授業は他には例がありません。学生が報道各社の意見に触れることにより情報の多面性を理解し、自主的に自己の価値観を確立していくというのが、本講座の最も大きな特徴です。

「マスコミ論Ⅰ」では新聞製作の仕組みや記者・通信社の仕事、視聴率の持つ多面性、地域メディアとしての役割、地域密着の番組制作、緊急報道と放送の使命などの基礎的な内容を取り上げ、「マスコミ論Ⅱ」では、奄美におけるマスメディアの問題に焦点を当てた内容を取り上げます。

また、本授業の一環として、2006(平成18)年2月11日(土)、鹿児島大学稲盛会館において、学内と地域住民の方々へ向けた公開討論会の開催を予定しています。詳細につきましては、本学のホームページなどで告知を行います。皆様のご参加をお待ちしております。



マスコミ論Ⅰの授業風景 講師：堅田宏司先生(日本経済新聞社鹿児島支局)



2005(平成17)年5月、協定書を取り交わす本学の永田行博学長と放送大学の丹保憲仁学長

▶ 放送大学と単位互換協定締結

本学の学生の勉学意欲の増進と多様なニーズに応えるため、放送大学との単位互換協定を締結しました。放送大学と双方で単位を認め合うのは千葉大学、滋賀大学に続き本学が全国で3番目となります。鹿児島大学からは、教養科目10科目、専門科目122科目の合計132科目、放送大学からは128科目がそれぞれ提供され、本学の学生と放送大学の学生はお互いの大学の授業を受講できます。

本学と他大学との単位互換制度にはこれまで、県内10大学、短期大学、高等専門学校間の授業交流「KRICEキャンパス鹿児島^{*1}」がありましたが、新たに放送大学との単位互換制度が設けられたことにより、平成17年度後期から本学の学生はより一層幅広い分野の授業を受けることができるようになりました。

放送大学の学生は通信制大学とはスタイルの違う授業を本学で受けることができるようになり、また本学の学生は、放送大学の幅広い年齢の学生が生涯学習に取り組む姿や高い勉学意欲に触れることができることから、環境の異なる学生と一緒に授業を受けることで刺激となることが期待されます。

鹿児島大学の単位互換制度についての詳細は、鹿児島大学学生部ホームページ

<http://kss.kuas.kagoshima-u.ac.jp/kyomu/risyu/>でご覧になれます。



単位互換に関するページ ▶▶

※1 KRICEキャンパス鹿児島

鹿大をはじめとする鹿児島県内の10校が参加し、平成17年4月から実施されている授業交流(単位互換)の名称。KRICEとは、Kagoshima Regional Intercollegiate Credit Exchange(鹿児島県における大学間単位互換)の略称である。特色ある授業科目の相互活用によって学生の関心や学習意欲に応じてその能力を十分に伸ばし、国際的視野・教養を備えた多様な人材の育成を目的としている。

▶ 建築学科学生による 建築展開催

工学部建築学科3年生による「第48回建築展」が9月17日から27日まで、中央駅一番街商店街で開催されました。「その場所でしかできないことをやれたかった」と実行委員長の有村祐介さんと岡元夕弥さん。今回は「未来の建築家が創る商店街」をテーマに、街や人との関わりの中で1/1スケールの体験できる空間づくりに取り組みました。

商店街と協力して、アーケードの天井をカラフルな布で覆った空間やビニールひもを使った「ねじれの空間」、ペットボトルを建築素材として再利用した「ペットボトル建築」、竹の躍動感、素材感を生かした「有機物が侵食する空間」を展示。お茶会や音楽演奏なども行い、買い物客を楽しませていました。一番街商店街振興組合の安田正和理事長は「自己満足でなく、皆が楽しめるようなイベントにしてくれた」と感想を話してくださいました。



「ねじれの空間」

▶ 医学科入学者選抜に 「地域枠」を導入

医学部医学科は、平成18年4月に入学する医学部医学科の入学者選抜から、「地域枠」制度を導入しました。

「地域枠」制度は、鹿児島県における地域医療、特に離島へき地診療施設などでの医療に積極的に従事しようとする強い意欲と情熱を持つ学生に入学してもらうことを目的としたものです。鹿児島大学は、離島へき地医療への従事を積極的に希望する学生を支援する鹿児島県の修学資金貸与制度との連携を図り、離島へき地における地域医療への貢献を目指しています。

この制度による入学者には、鹿児島県から修学資金として入学金、6年間にわたる授業料、生活費、図書購入費が貸与されます。卒業後臨床研修(2年間)の終了後に、県の指定する離島へき地の医療機関に3年間勤務することにより、これらの資金の返還が免除されます。



離島医療実習に参加した医学部生と十島村立中之島へき地診療所のスタッフ

▶ 教育学部4年生の小説が好評

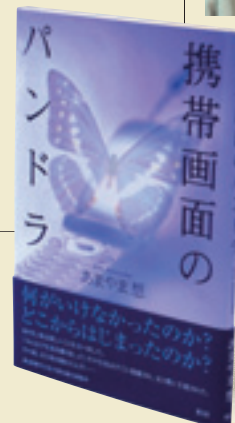
教育学部心理学専修4年生の矢草山誠さん(ペンネーム:あまやま想)の小説『携帯画面のバンドラ』が反響を呼んでいます。ギリシャ神話を織り交ぜながら、携帯電話を取り巻く人間模様が丁寧に描かれた作品です。

同作品は碧天舎が公募する、第3回碧天文芸大賞出版化奨励作として2005(平成17)年2月に書籍化され、鹿大生協などの書店で販売しています。また、インターネットのオンライン書店では電子書籍として購入もできます。オンライン書店の試し読みランキングで第1位になるなど、注目が集まっています。「小説を書くと、自分の考えを新しく発見できるところが面白い。まだ、小説で食べていけないとは思えないが、働きながら今後も小説を書き続けていきたい」と矢草山さん。現在は3作目を執筆中とのことで、これからの活躍が楽しみです。

『携帯画面のバンドラ』(碧天社・2005) ▶

教育学部心理学専修4年生
矢草山誠さん

(ペンネーム:あまやま想)





▶ 鹿児島大学ブランド焼酎が誕生

大隅半島の高隈山系にある農学部附属高隈演習林には良質の水が湧き出ています。このたび、この湧水を使用した鹿児島大学ブランド焼酎が誕生します。

高隈の湧水を仕込水に使ったかめ壺仕込みの原酒「春秋謳歌」(しゅんじゅうおうか)、割水にも使った「きばいやんせ」の2種類、どちらも鹿児島県産の良質のさつま芋を原料とした「本格芋焼酎」です。

鹿児島大学は薩摩酒造(株)に高隈の湧水を提供し、鹿児島大学の商標(学章等)の使用を許諾して、同社が鹿児島大学ブランド焼酎として製造販売します。

「春秋謳歌」は12月1日から薩摩酒造「明治蔵」で発売、「きばいやんせ」については近日発売予定です。



鹿児島大学附属演習林は、約100年前、島津藩の藩有林を農学部の前身である鹿児島高等農林学校が受け継ぎ、開設されました。この森では、2万5千年前の始良火山の大噴火によって噴出したシラスや軽石の厚い堆積層と、豊かな森の働きとが相まって、豊富で良質の地下水が育まれています。

*この焼酎の購入に関するお問い合わせ先
薩摩酒造(株)花渡川蒸溜所「明治蔵」
 鹿児島県枕崎市立神本町26
 TEL 0993-72-7515 FAX 0993-73-2305
 E-mail meijigura@satsuma.co.jp

(写真左)原酒「春秋謳歌」アルコール分36度 720ml (税込2,940円)
 (写真右)「きばいやんせ」アルコール分25度 900ml (税込914円)

▶ 鹿児島大学病院の教育プログラムが採択

今年9月、文部科学省の平成17年度「地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム」に、鹿児島大学病院が応募した「離島へき地医療を志す医師教育支援一方向・多元的情報網を活用した先進的医療人教育プログラム」が採択されました。大学病院が離島へき地医療機関と連携し、離島へき地医療の現状や課題についての認識を深める教育・研修体制の整備を進めるのが目的です。

多くの離島へき地を抱える鹿児島県の地域特性(有人離島27、離島人口19万人)を踏まえた地域医療に貢献する医療人養成のプログラムです。

プログラムの詳細については、次号の『鹿大ジャーナル171号』で詳しく紹介する予定です。

▶ 行事予定(2006年2月~4月)

●推薦入学II	入学者選抜試験実施日	2月 9日
	合格発表	2月13日
●一般選抜・前期日程	入学者選抜試験実施日	2月25日~26日
	合格発表	3月 7日
●一般選抜・後期日程	入学者選抜試験実施日	3月12日~13日
	合格発表	3月21日
●平成17年度卒業式		3月24日
●平成18年度入学式		4月 7日



(表紙写真)

●「質問本草」
 (玉里文庫 天之处53番 553)
 本書は内篇四巻・外篇四巻(全8冊)からなる書物で、薩摩を中心とした南西諸島におよぶ植物160種の彩色図譜である。島津重豪の命により編纂されたもので、中国福建省の学者に質問する形式で、植物名の同定を目的とした。
 (鹿児島大学附属図書館所蔵)

編集後記

恥ずかしいことですが、編集委員になって初めて「鹿大ジャーナル」を隅から隅まで読んでいます。鹿児島大学にはなんと広く多様な人材が集まり、卒業生がたくさん分野で活躍していることでしょうか。私もその一人として参加できることを誇りに思い、少しでも貢献できるようにしなければと思つたところです。

今号の特集は「鹿児島大学の教育」です。ここ数年、教育に関する教員の意識が急激に変わってきて、学生が興味を持ち参加できる教育法について盛んに議論され工夫されるようになってきました。しかし、どんなに丁寧な講義でも、初めての内容を二度聞いただけで理解できる人は少ないでしょう。講義を聞いて内容についてのバリエーションがなくなったら、復習でもう一度自分の論理で考えて理解する努力が、学生にも求められていると思います。

広報誌編集専門部会会長
菊川浩行